

公益財団法人8020推進財団
令和3年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：新しい生活様式における歯科保健啓発活動の模索

2. 申請者名：一般社団法人 仙台歯科医師会

代表者名 小菅 玲 担当者名 平田 政嗣

3. 実施組織：(一社)仙台歯科医師会・東北大学・仙台市・歯と口の健康づくりネットワーク会議

4. 事業の概要

令和2年に全世界を襲った新型コロナウイルス感染症の拡大は、我々にとって生活様式の変更を余儀なくさせた。特に集会等の密の回避・人との接触の回避は、多人数を集めて近距離対面で刷掃指導を行ったり、直接口腔や唾液を用いて指導したりする既存の歯科保健啓発活動は実施不可能となった。さらに、簡便で実施場所をさほど問わないリモートやオンライン様式の普及は今後アフターコロナ下においても、世の中のスタンダードになっていくことが予想される。

このような現状を踏まえ、歯科保健啓発活動も変革していく必要がある。具体的には今まで対面で実施してきた啓発活動に換えて、ホームページや SNS を用いてより効果的に啓発する方法の検討である。さらにはアフターコロナ下での集会の再開がどのような制約が付くかが予想できない現状にあつては、啓発活動のハイブリッド化やサテライト化も検討すべきであり、さらにそれを効果的にアドボカシー活動していくかを検討する必要もある。本事業はそれらを解決するまでは至らなくても、何らかの方法の模索と試行を行うことをその目的とする。

格差などの社会の抱える問題や個人の不適切な生活習慣の表現型として最も初期に出現するのが歯と口の健康問題と言われている。新しい生活様式という変化を迎え、新たな社会格差や生活習慣の変化が出現するかもしれない。それらに対応すべく歯科保健啓発活動も対応できるツールを準備する必要がある。本事業の意義もそこに存在するのではないだろうか。

5. 事業の内容

1. 歯科保健啓発活動の検討 目的に適した方法の検討とツールの開発
2. 歯科保健啓発活動の実施
3. 歯科保健啓発活動の集計と分析
4. 分析結果の有効活用方法の検討
5. 抽出課題からさらなる方法の検討・啓発の効率向上に寄与する活用方法の検討

6. 実施後の評価（今後の課題）

本事業では対象を6月の歯と口の健康週間に焦点を当てて検証した。本市ではコロナ禍前までは当期間の土曜日に集合型のイベント「歯と口の健康週間市民のつどい」を実施し、最大1,000人の市民に対して啓発活動を実施していた。今回、新型コロナウイルス対策として実施したウェブ開催であったが、結果として参加機会の拡大や各参加団体が動画を作成することでより市民への啓発機会と主体的に参加できるという効果も確認できた。これまでに実行委員会を組織していたことが、ウェブ開催への理解を得ることに役立ち、普段からの連携の重要性を再確認できた。

参加者へのアンケート結果では、高評価を得ることが出来ている反面、スマホ対策や SNS での情報提供の少なさ、リアル開催への期待など今後検討すべき課題を得ることができた。また、周知方法として本会 HP や仙台市 HP、大学等 HP での紹介、フリーペーパーでの記事広告、学校・保健福祉センター等の行政機関へのチラシの配布、歯科医師会会報への院内掲示用ポスター配布等を行ったが、周知・アドボカシー活動の難しさを実感した結果となった。

今後は本実施形態を基本として、今回実施できなかった双方型の啓発活動の検討・更なる SNS との連携・アドボカシー活動の更なる進展等を課題として課題解決に向けて検討を継続したいと考える。